

JCS NEWS



第3回

ジュニア・チェロ・キャンプ 開催報告

CONTENTS

第3回ジュニア・チェロ・ キャンプ開催報告	2 - 3
アウトリーチ実施報告 佐藤晴真さんミュンヘン 国際音楽コンクール優勝	4
公開マスタークラス開催報告	5
Cellist's update	6 - 7
メンバーズ 退任のご挨拶 事務局からのお知らせ	8

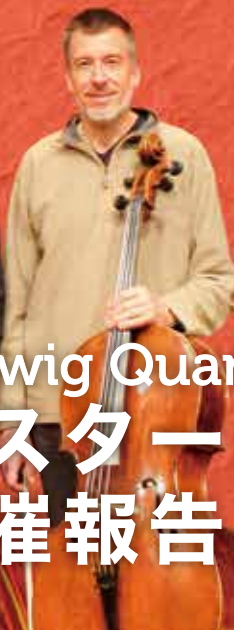
佐藤晴真さん
Interview



祝! ミュンヘン国際音楽コンクール優勝
©Daniel Delang



Ludwig Quandt
マスタークラス
開催報告



Junior Cello Camp

第3回 ジュニア・チェロ・キャンプ

Photo by 坂中 雄紀

ご指導いただいた先生

■ソロ演奏コース

堤 剛先生、長谷川 陽子先生、
向山 佳絵子先生、山崎 伸子先生、
諸田 由里子先生（ピアニスト）

■アドバンスト・アンサンブルコース

堀 了介先生、大友 肇先生、
池松 隆さん（アシスタント）

■ビギナーズ・アンサンブルコース

中島 顕先生、西谷 牧人先生、
田中 愛さん（アシスタント）



令和元年9月21日（土）、22日（日）に桐朋学園大学調布キャンパス（東京都調布市）にて、第3回ジュニア・チェロ・キャンプ（以下JCC）を開催いたしました。今回は昨年の第2回を上回る、50名を超える応募を頂き、総勢44名の小・中学生が、北は北海道、南は兵庫からと全国各地から集まりました。

コースの内容は、昨年同様3つのコース（ソロ演奏コース、アドバンスト・アンサンブルコース、ビギナーズ・アンサンブルコース）に分かれてアカデミーを実施。2日目には、練習の成果を披露する発表会を行い、会場を調布クレストンホテルに移し、和やかな懇親会が開催されました。

昨年の第2回の開校式にて、山崎先生の「毎年続けます！」とのお言葉を受けて、今年もJCCを開催することができました。前回同様、各々のグループレッスンはもちろん、ソロ演奏コースのレッスンの聴講や、3コース合同のアンサンブルと共に、参加者、指導者、スタッフ全員でお昼を囲む時間を、今回も設けました。また、初日には講師2名（大友肇先生、西谷牧人先生）によるアンサンブル演奏があり（ボッケリーニ《2つのチェロのためのソナタ》ハ長調 G74 I. Allegro Moderato II. Largo III. Allegro）、今年も翌日に発表会を控えた参加者にエールを送っていただきました。

1日目の緊張した表情も、2日目には和やかな笑顔に変わっていく姿を見受けられ、このキャンプで改めてチェロを好きになり、沢山のチェロ仲間を増やすことができていたら嬉しい限りです。開講式での堤先生のお言葉にもありますが、チェロを学ぶことだけではなく、人間を育む時間や環境づくりを大切に、このキャンプで継続していきたいと切に願っております。2日間に亘り、ご協力をいただきました桐朋学園大学の皆さまに深く感謝申し上げます。

来年も、第4回を秋に開催予定です。沢山のご応募お待ちしております。

VOICE

5-138 西田 翔

僕は、第2回ジュニア・チェロ・キャンプに参加した時もソロコースで参加しました。この頃は、自分の頭で描いている演奏が思うようにできず、少しくわしく、集中できていない日が多かったです。去年のジュニア・チェロ・キャンプでショスタコーヴィチのコンチエルトの第一楽章を弾いたのですが、満足できる演奏はできませんでした。レッスンでは堤先生に腕の使い方を指摘され、山崎先生からは、音程がひどい、と言われてしまいました。結構ショックでした。それから心を入れ替えて、一年間音階やエチュードの練習をきちんとやってきました。特に音階は本当に一所懸命、考えながらやってきました。こうしてやってきた成果がどこまで通用するだろうか、と少しワクワクしながら今回のキャンプに参加しました。

堤先生のレッスンは、先生のおっしゃることがとても理解できたり、すぐに取り入れることができました。発表会でも、緊張していつも通りとまでは言えませんが、自分なりに満足できる演奏ができたと思います。一年前、厳しいお言葉を頂いて、自分は成長することができた、と思いました。

ジュニア・チェロ・キャンプは、友達ができたり、アンサンブルをしたり、同年代の人のレッスンや演奏を聴くことができるとてもいい機会です。また、先生方はもちろん、事務局やボランティアの人がいるからこそ、開催できるのだというメッセージが、本当に心にしましました。僕も、来年以降はOBとして、小さな子たちのお世話や裏のお仕事など、お手伝いできることがあれば、ボランティアとして参加してみたいと思っています。

参加者の声

●西田君のレッスンを聴講しましたが、堤先生が曲の背景や作曲家のことをたくさん質問したりお話しなさっているのを見て僕もそういうことをしっかり学んでいるのと思いました。

●向山先生にビブラートについて丁寧に教えてもらい、自分なりに曲がよくなったと思う。家に帰っても忘れないで練習したい。

●助手の先生にたくさん助けて頂き、感謝です。

●チェロデューオはあまりきいたことがなくて、2つの楽器で音を鳴らしているのに、まるで1つの楽器で演奏しているように音が揃っていて、一体感がすごかったです。

●お二人の演奏が会話しているように聴いていてとても楽しかったです。

堤先生より



〈開講式〉

今年は本当に多くの方に参加して頂き、私達一同大変嬉しく思っています。また、チェロの将来が明るいという気が強くしております。

2日間という短い間ですが、素晴らしい先生方が揃い、そして色々な所から皆さんにいらして頂きました。このキャンプからは佐藤

山崎先生より



〈閉講式〉

2日目の今日は午前中のゲネプロから皆さんの演奏をずっと聴いていましたが、皆さん本当に本番に強いので、羨ましいなと思いました。そして、皆さんの音には、勢いというものがあり、気持ちが入められていて、透明感があり、素晴らしいかったです。

昨年と同じようなことを話していたら泣いてしまいました。今回は泣きません。前回はこのような素晴らしい会があった、「これから毎年続けます！」と宣言いたしましたので、来年も開催したいと思っています。中島先生から「東京ドームをいっぱいにしよう」という話も出ましたが、それはさすがに実現が難しいかもしれません、そのような勢いで続けていけたら良いなと思います。スタッフさんの皆様、ボランティアの皆様、本当にありがとうございます。ご父兄の方々も、お子さんの準備など大変だったと思います。でもやはりご家族が協力してこその子供たちの成長だと思えますので、これからは支えていってあげてほしいと思います。来年もまたこのキャンプで会いましょう！



晴真さんのように先日行われたミュンヘンの国際コンクールで優勝、という素晴らしい方も輩出しています。皆さんに同じようにコンクールで1等を取ってほしいと思っっているわけではないのですが、やはりチェロというのは本当に素晴らしい楽器なので、（これは皆さんも保護者の方も全く同意見だと思えます）チェロという楽器を通して、音楽家として演奏家として、そして、スズキ・メソッドの鈴木鎮一先生のお言葉をお借りしますと、一番大事なことは、それを通じて、人間を育てていく、ということを感じてほしいです。

今回も例えばお昼を一緒に食べるとか、色々な形のレッスンやアンサンブルなどを通じて、できるだけ多くの先生方や仲間たちとの交流を深めて、お互いに切磋琢磨し、自分というものにチャレンジする。それもチェロを

楽しむ一つだと思います。自分がどれくらい、どういったことができるのか。私どもとしても、そういうあなたの方の気持ちを育み、才能をできるだけ伸ばすお手伝いをしたいと思っています。

短い期間ですが、できる限り充実したものにしたいと思っています。頑張ってください。



発表会プログラム

ソロの部

- | | |
|------------------------------|-------------|
| G.フレスコバルディ/G.カサド編：トッカータ | <小5（神奈川）> |
| L.V.ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第3番 第1楽章 | <小6（東京都）> |
| D.カバレフスキー：チェロ協奏曲 第1番 第3楽章 | <小4（神奈川）> |
| F.J.ハイドン：チェロ協奏曲 第1番 第1楽章 | <中1・中3（東京）> |
| F.J.ハイドン：チェロ協奏曲 第1番 第3楽章 | <中2（愛知）> |
| P.I.チャイコフスキー：ペッツォ・カプリチオーソ | <中1（神奈川）> |
| E.ラロ：チェロ協奏曲 第2楽章 | <中1（北海道）> |
| C.サン＝サーンス：チェロ協奏曲 第1番 第3楽章 | <中3（東京）> |
| E.エルガー：チェロ協奏曲 第1・第2楽章 | <中2（長野）> |
| D.ショスタコーヴィチ：チェロ協奏曲 第1番 第3楽章 | <中1（兵庫）> |
| G.カサド：無伴奏チェロ組曲 第2・第3楽章 | <中3（東京）> |

アンサンブルの部

- ジョルダーニ：6つのデュオより2番の2
Starr：Canons and RoundsよりSkip to My Lou
ビギナーズ・アンサンブルコース
小2（東京2名・神奈川2名） 小4（東京2名・石川） 小5（山梨・千葉2名）
小6（神奈川・千葉） 中1（千葉） 中2（静岡）
- ゴルターマン：2つのサロン風小品より 1.ノクターン 2.レジオーン
アドバンスト・アンサンブルコース
小3（千葉） 小4（山梨・埼玉・大阪） 小5（神奈川） 小6（愛知2名・神奈川・東京・大阪） 中1（秋田・千葉・埼玉・愛知2名） 中3（山梨）
- ゴルターマン：セレナーデ
ヘンデル：パッサカリア
全コース合同

保護者さまより

●先生方はもちろんですが、スタッフの方々のご協力があれば成り立たないキャンプだと思います。子供達の前で、大切な事をお話し頂きありがたかったです。チェロの技術論でなく、人間としての教育をして頂けたのは親として感謝致します。

●チェロ好きの子供たちを育てよう、ということが隔々に伝わるチェロキャンプでした。

●自分と同じチェロをやっている仲間が会場で自分の演奏を聞いてくれて、いつもの本番とは違う雰囲気を感じることができた。

●演奏中に、山崎先生や堀先生やとなりのお友達とアイコンタクトを取ったりしながらニコニコ弾くのは楽しかったです。

●去年の発表会ではとても緊張して弾けませんでした。今年とは全く楽しく弾けて、たくさん先生やスタッフの方々に褒めて頂いて嬉しかったです。



アウトリーチ実施報告

日時：2019年7月20日(土)

実施場所：社会福祉法人もえぎの会 しいの実社懇親会

参加者：伊藤 七生、加藤 陽子、稲石 薫、花房 克磨

音楽ワークショップ・アーティスト おとみっく

R-388 花房 克磨

以前からJCSのアウトリーチ活動に興味があったので、今回声をかけて頂きとても嬉しかったです。「宇宙に行ったことある人？」という司会者の方の質問に、「はいっ!」と元氣よく手を挙げる女の子がいたりして、とても楽しい会でした。事前の合わせは一度でしたが、伊藤さん、加藤さんのリードのおかげで自分まで上手くなったような幸せな錯覚をさせてもらえました。本当に貴重な経験でした。また機会があれば参加したいです。

R-382 稲石 薫

初めてのアウトリーチ活動でしたので、前夜は緊張でなかなか寝付けませんでした。

しかし、演奏が始まると、皆さん身乗り出して聞いて下さり、ノリの良い曲では身体をゆすったり、息の合った演奏ができたと思った時には客席からも「すごい」と拍手が出たりと、ストレートな反応にびっくりしつつも、楽しく演奏できました。身構えずに素直に音楽を楽しみ、共有する素晴らしさを教えて頂いたように感じました。

ミュンヘンARD国際音楽コンクール(ドイツ) チェロ部門で佐藤晴真さんが日本人初の優勝!

2016年ドイツに留学し始め、視野が世界に開けた時点で、いくつかの国際コンクールは視野に入れていました。他にも、僕の今の師であるマインツ先生がミュンヘン国際音楽コンクールで優勝されていること、それに続く多くのクラスメイトも同コンクールで受賞歴があったことも、大きなきっかけになりました。

●今回のコンクールで得たものは? 「作曲家の意図」を表現する上で、工夫されたこと、研究されたこと、意識されたことはありますか?

モチベーションの保ち方はかなり変わってきたかなと感じます。以前はとにかく練習に打ち込むことで他の事を忘れていましたが、今はしっかりと息抜きをするようになりました。というよりも、息抜きを含めた時間の使い方を考えられるようになった、という方が正しい言い方でしょうか。

楽譜の読み方は、少しは細かいところまで考えられるようになったかなと思います。音楽が停滞しないようにどこまで進めていけるか、音型ひとつひとつの意味を考え、それをどのように感じるか。特に本選会で演奏したショスタコーヴィチの《チェロコンチェルト第2番》は、まだオーケストラと演奏したことがない完全なる新曲で、じっくり時間をかけて楽譜を読み込みました。それに加えて色々な録音を聴いて勉強し、もちろんその中には審査員の方の録音もありました。一つの作品については解釈が様々あり、それらは自分ものとは違うものでした。そこで僕は、今の自分の信じ

は?

●コンクールを受けようと思ったきっかけは?

2016年ドイツに留学し始め、視野が世界に開けた時点で、いくつかの国際コンクールは視野に入れていました。他にも、僕の今の師であるマインツ先生がミュンヘン国際音楽コンクールで優勝されていること、それに続く多くのクラスメイトも同コンクールで受賞歴があったことも、大きなきっかけになりました。

●今回のコンクールで得たものは? 「作曲家の意図」を表現する上で、工夫されたこと、研究されたこと、意識されたことはありますか?

モチベーションの保ち方はかなり変わってきたかなと感じます。以前はとにかく練習に打ち込むことで他の事を忘れていましたが、今はしっかりと息抜きをするようになりました。というよりも、息抜きを含めた時間の使い方を考えられるようになった、という方が正しい言い方でしょうか。

楽譜の読み方は、少しは細かいところまで考えられるようになったかなと思います。音楽が停滞しないようにどこまで進めていけるか、音型ひとつひとつの意味を考え、それをどのように感じるか。特に本選会で演奏したショスタコーヴィチの《チェロコンチェルト第2番》は、まだオーケストラと演奏したことがない完全なる新曲で、じっくり時間をかけて楽譜を読み込みました。それに加えて色々な録音を聴いて勉強し、もちろんその中には審査員の方の録音もありました。一つの作品については解釈が様々あり、それらは自分ものとは違うものでした。そこで僕は、今の自分の信じ



ミュンヘン国際音楽コンクール

2019年9月13日(日本時間14日未明)に、第68回ミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門において、会員の佐藤晴真さんが1位入賞されるという、嬉しいニュースがありました。佐藤さんは、高校時代、山崎伸子先生に師事されており、2013年に開催した第1回ジュニア・チェロ・キャンプに参加される等、当協会にもゆかりのある、期待の若手チェリストです。佐藤さんにお話を伺いましたので、ご紹介いたします。



©Daniel Delang

●コンクール中、楽器の取り扱い(メンテナンス等)で気を付けたことは?

今年の夏より、宗次コレクシヨンより楽器をお借りしてから始めてのコンクールを迎えました。それに向けて一生懸命楽器を磨いていました。弦や弓の毛の状態など、できることを全てやっただけでミュンヘンに入ったので、メンテナン스로不安になることはありませんでした。

●ドイツに留学されて好きになった食べ物はありますか?

質問の意図に反しているのは承知ですが、日本の冷奴と卵かけご飯が思い浮かびません(笑)。ドイツに留学してから、逆に日本の文化や食の素晴らしさが再認識でき、それを帰国した時の小さな楽しみにしています。特に生卵に関しては、ドイツ留学2日目にお店で食べたカルボナーラで体を壊し、そのトラウマもあり日本でのみ食べるようにしています。冷奴にはシソとミョウガと醤油がお気に入りです。

●チェリストとして今後の展望(目標)がありましたら、お聴かせください。

国や時代、楽器編成に捉われない様々な音楽を勉強し、ひとつひとつの舞台を楽しみながら活動していければ、それほど幸せなことではありません。

る音楽をぶつけようと思い、全く違うアプローチで挑みました。このように、コンクールという場を忘れてただ自分の音楽に集中してきたことも、良い結果に繋がった理由の一つかなと思っています。

●コンクール中、楽器の取り扱い(メンテナンス等)で気を付けたことは?

今年の夏より、宗次コレクシヨンより楽器をお借りしてから始めてのコンクールを迎えました。それに向けて一生懸命楽器を磨いていました。弦や弓の毛の状態など、できることを全てやっただけでミュンヘンに入ったので、メンテナン스로不安になることはありませんでした。

●ドイツに留学されて好きになった食べ物はありますか?

質問の意図に反しているのは承知ですが、日本の冷奴と卵かけご飯が思い浮かびません(笑)。ドイツに留学してから、逆に日本の文化や食の素晴らしさが再認識でき、それを帰国した時の小さな楽しみにしています。特に生卵に関しては、ドイツ留学2日目にお店で食べたカルボナーラで体を壊し、そのトラウマもあり日本でのみ食べるようにしています。冷奴にはシソとミョウガと醤油がお気に入りです。

●チェリストとして今後の展望(目標)がありましたら、お聴かせください。

国や時代、楽器編成に捉われない様々な音楽を勉強し、ひとつひとつの舞台を楽しみながら活動していければ、それほど幸せなことではありません。

Master Class

11月

Ludwig Quandt

ルートヴィヒ・クヴァント

公開マスタークラス

クヴァント先生は1991年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に入団、1993年より第1ソロ・チェロ奏者を務めている。多彩な音色や表現力を持ち、ソロストとしてだけでなく、室内楽奏者としても世界中で評判を集めている。

開催日：2019年11月17日（日）

会場：サントリーホール ブルーローズ（東京都港区）

講師：ルートヴィヒ・クヴァント 通訳：高島 まき

受講生：2名 講師・通訳・伴奏者：4名

来場者数：会員43名、非会員30名、関係者1名

S-202 山本 大

ピアノ：谷合 千文

R. シュトラウス：交響詩《ドン・キホーテ》

「ここはもっとクレイジーに!」「ここはドン・キホーテが唯一人間らしくなる場面です」

これらはクヴァント先生の仰った言葉の一部ですが、ストーリーを語りながらレッスンして下さった先生はエネルギーに満ち溢れていて、大変内容の濃い時間となりました。また、彼の一つ一つの言葉には様々なイメージが詰まっていて、最初はそれを理解するのが難しく感じましたが、曲が進んでいくにつれ理解が深まり、自分の気持ちも高ぶっていきました。

元々『ドン・キホーテ』はスペインで1605年に出版された小説で、それを題材にR. シュトラウスが音楽をつけるという、魅力が盛り沢山の曲です。僕は大学に入ってからこの曲の虜になってしまい、それ以来時間がある時は色々な録音を聴いたり、コンサートへ足を運んだり、スコアを眺めたり、色々な面からこの《ドン・キホーテ》に取り組みました。そして、今年の夏頃に本格的に譜読みを始めていた所、クヴァント先生がマスタークラスにいらっしゃる事を知り、これはまたとないチャンスだと思い、今回の受講に至りました。

クヴァント先生は物語を解説しながらレッスンを進め、その内容と弾き方をどのようにリンクさせていくのかを重点的に教えて下さいました。登場人物のキャラクターとその時の感情を的確に捉えることにより、曲へのアプローチがこんなにも変わってくるのだと、肌で感じました。特に、ドン・キホーテが風車を龍と間違えて激突する瞬間と、それによって気絶しているシーンの弓のストロークは新しい発見の一つでした。目まぐるしく変化する場面に全て異なる表情を持たせることで、曲全体を立体的に組み立てることが出来るように感じました。

今回のマスタークラスを通じて、チェリストとして、また音楽家として、益々精進しなければならないと思ったと共に、「《ドン・キホーテ》をオーケストラと共演する」という新たな夢に向かって、広い視野を持って何事にも挑戦したいです。



S-161 菅井 瑛斗

ピアノ：原嶋 唯

ドヴォルザーク：《チェロ協奏曲》ロ短調 第3楽章

ドヴォルザークの《チェロ協奏曲》第3楽章は僕にとって挑戦でした。この曲は圧倒的に難しいのです。音を正しく並べる段階でも難易度が高いのに、更に音楽性溢れる表現力を持っていないと皆様の心に響く演奏にはなりません。

僕は、桐朋音楽大で師事している長谷川陽子先生、そして今回ピアノで共演して下さった原嶋唯さんと共にギリギリまで第3楽章を研究しました。運の良いことに、今年の8月、ドヴォルザークの《チェロ協奏曲》第1楽章の方を堤 剛先生や宮田大先生のマスタークラスで受講していましたので、その教えも必死に思い出しながら第3楽章に応用して準備しました。

そして当日。会場であるサントリーホールでリハをさせて頂いた後、少しだけ楽屋で音出しをしたらすぐにマスタークラスが始まりました。ルートヴィヒ・クヴァント先生は、教え方も演奏も、本当に沢山の表現を持っていられっしゃる方でした。例えば、「海外でBlue Roseは不可能の代名詞とされてきた。でもサントリーがバイオ技術によって青いバラを開発した事からこのホールはブルーローズという名前になった。だから君も、せっかくこのホールで弾くのだから、夢見るような音色を出して」という言葉が、あまりにもお洒落すぎて心に響きました。

先生の演奏は「歌うように弾く」というより「喋るように弾く」演奏でした。それは僕のマスタークラスの時だけでなく、山本大さんがシュトラウスの交響詩《ドン・キホーテ》でマスタークラスを受けている時に先生が奏でいらっしゃる音色が本当に喋っているかのように聞こえ、驚きが止まらなかったのを覚えています。

今年は沢山の先生に、歌う事、喋る事を教えて頂きました。僕のこれからのテーマは「喋るような演奏」をいかにして実現するかです。





© Kazuya AKASHI

R-115 Goichiro OGAWA

小川 剛一郎さん

1. 近況を教えてください

1993年に結成した『トリオ・ミンストレル』は27年目を迎え、秋には全国ツアーを予定しています。メンバーの北住氏（ピアノ）とは彼の師匠伊達純が私の大叔父で、彼の紹介で学生時代に知り合いました。木野氏（ヴァイオリン）は桐朋学園の後輩です。パリ留学から

帰国後暫くして、それぞれ別の仕事で共演しました。彼等とTrioを組んでみたいと思っていたところ、四日市からリサイタルの依頼がありました。主催者に無理を言ってリサイタルをトリオコンサートに変更していただき、ミンストレルのデビューとなった訳です。毎年9月～10月に集まることから南仏に吹く台風の様な風（Mistral）と吟遊詩人（Ménestrel）の2つの意味を込めて「Minstrels」と命名しました。27年続けて来るのに大変だった事は一度もありません。毎回毎回3人とも楽しくて仕方がないと思いながら演奏しております。ツアーの前には4日間伊豆のホテルで合宿を組んで本番に備えております。練習の後はプールと温泉、美味しい海の幸、伊豆牛のBBQ等それもこの合宿の楽しみでもあります。

また、2004年に始めた『チェロ合宿』は今年で第17回目となります。各教室の門下生が一同に集まり、集中練習や合奏を行っています。一昨年始めた『バッハを弾く会』は無伴奏チェロ組曲を生徒さんで弾き続ける企画です。また、岐阜、帯広、札幌で行っている『Trio クリニック』では、各楽器の生徒さんが先生とトリオを組んで演奏する企画を実施しており、今年から東京での開催を考えております。

2. チェロを始めたきっかけは？

小3の時にチェリストだった祖父に1/2の楽器を与えられてチェロを始めました。井上頼豊先生は祖父の弟子という事もあり、毎週の祖父のレッスンに加えて、月に一度井上先生のレッスンを受けるという恵まれた環境でした。が、サボってばかりで叱られていました。



R-549 Yoko ARA

荒 庸子さん

1. 近況を教えてください

近年では、大学で教育に携わり、各地での演奏活動のほか、今年4月からは洗足学園小学校オーケストラの統括責任も務めさせて頂いています。殆どの小学生が生まれて初めてそれぞれに選んだ楽器を手にし、一生懸命に譜面を読み

ながら演奏する姿は本当に健気で可愛いです。

また、昨年、CDをリリースしました。（音楽配信サイト“e-onkyo music”の冬のプライスオフキャンペーンにて1月13日までセール中です！）

Smile - 珠玉のシネマ名曲集

<https://www.e-onkyo.com/music/album/nycc13003/>（アルバムページ）

※対象はハイレゾ（高音質アルバム）のみ。

2. チェロを始めたきっかけは？

性格改善のためです。3歳からピアノを習っていたのですが、ピアノだと練習していても直ぐに立ち上がってお水を飲みに行くような落ち着きのない子供だったそうで、当時、母が「チェロのような大きな楽器を構えていたらわざわざ横に置いて立ち上がることは容易ではないから良いのでは！」と思ったそうで、7歳のお誕生日にプレゼントしてもらいました。そして、母の学生時代に憧れていた女性の先輩の楽器がチェロだったこともあるそうです。

3. プロのチェリストを目指している学生や若いチェリストに望むことはありますか？

演奏家は人の心に響くような感動を生み出すことが使命です。ただ、チェロを練習して弾くことだけではなく、自分の肥やしをたくさん蓄えるために、いろい

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

本番が無事に終わり、打ち上げの席に並んだご馳走を前にして運ばれてくる、よ〜く冷えた生ビールに手をのばす時です。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

絵を描く事です。桐朋学園高校を受験するときに、音楽の道に進むか美術の道に進むか真剣に悩みました。

5. プロのチェリストを目指している学生や若いチェリストに望むことはありますか？

2つ程ありまして、1つは、出来るだけたくさん『生』の音を聴くことを勧めます。イヤホンやヘッドホンの音、機械が作った音に慣れてしまわないよう注意してほしいです。

2つ目は、演奏家はスポーツ選手以上に体力が必要です。そのため、身体づくりの習慣をつけることを勧めます。肉体も精神も元気であれば良い音楽が生まれると信じております。

6. コンgressに向けてメッセージをお願いいたします。

昔からチェリスト達は集まるのが好きだったようです。E.フォイアマンが来日した折り、当時の「日本チェロ協会」が巨匠を歓迎しました。独奏から大人数の合奏まで同じ楽器で様々な演奏が可能なチェロの魅力を堪能できるこの企画が、これからも永く続いていくことを願っております。

Upcoming Events

トリオ・ミンストレル コンサートツアー 2020 東京公演

日時／9月26日（土）18：30 開演

会場／東京文化会館

料金／一般 ¥5,500、学生 ¥2,500（全自由席）

出演／木野 雅之（Vn）、北住 淳（Pf）、小川 剛一郎（Vc）

問／ルイ・ムジーク（奥蔵）：044-865-2702

その他／福岡 9/18、大分 9/19、岐阜 9/21、四日市 9/22、大阪 10/30

ろな文化、芸術に触れ、また読書もたくさんして、見聞を広めて欲しいと思います。私のモットーは、[よく学びよく遊ぶ]です！そして、日本語以外の言語も勉強していただきたいです。外国の方と音楽を通してコミュニケーションをすることは出来ますが、やはり会話も出来るとな一層親密度がアップします！オーケストラでも来日される指揮者の殆どの方が英語を話されるので英会話が出来るといいですね！

4. コンgressに向けてメッセージをお願いいたします。

今回は、堤先生をはじめ、素晴らしいチェリストの方々と同じステージに出演させていただけることをとても光栄で嬉しく思っております。

今回の催事名にふさわしいと思い、今年（2019年）の夏、イタリアのピエモンテ州の近く、アックイ・テルメで行われた音楽祭で一緒に台湾出身のヴァイオリニスト、レイ チャンさんと、ピアニストのジョアンナ ティンさんと、リストがピアノソロのために作曲したトリステリア（オーベルマンの谷）を自らがピアノトリオに編曲したとても重厚で美しいピアノトリオを演奏させていただきます。

また、娘が2/9のジュニア・チェロ・オーケストラで初めて参加させて頂くことになり、今からワクワク、とても楽しみにしています。チェリストは集うことが好きです！弦楽器の中で一番音域の広い楽器だからこそ、可能なチェロアンサンブル。1人でも多くのお客様にチェロの素晴らしさ、魅力、可能性が更に伝わりますことを願い、最高の3日間を皆さまと一緒に出来ることを今から心待ちにしております。

Upcoming Events

荒庸子 チェロ リサイタル 2020

思い出がいっぱい 珠玉のシネマ名曲 SELECTION VOL.6

日時／2020年2月29日（土）19：00 開演

会場／ザ・シンフォニーホール

料金／S席：3,300円、A席：2,200円、プレミアムシート：4,400円

出演／荒庸子（Vc）、山田 武彦（Pf）

問／ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333（10:00～18:00 火曜定休）

Cellist's Update



R-602 Ai TANAKA

田中 愛さん

1. 近況を教えてください

桐朋学園付属の子供のための音楽教室で、年少から中高生くらいまでの生徒さんの実技とアンサンブルを教えています。教える事への比重はだいぶ大きくなりましたが、やり甲斐と責任を感じています。演奏も続けていきたいと思っているので良いバランスを探しながらの毎日です。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

中学校にオーケストラがあり、そこでチェロを始めました。礼拝で賛美歌を弾くのが好きだったので、それが今のチェロの道に進むきっかけになっている気がします。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

演奏旅行で色々な所に行く時にはとてもワクワクします。もちろんどんな響きのホールなのかな？というワクワク感もありますが、その土地の文化や食べ物、住んでいる方たちとお喋りなど、日常とは比べ物にならない出会いが凝縮しているので、その全てを含めてとてもワクワクします。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

最近、料理に凝っています。特に日本料理を習い始めてからは、季節の移り変わりや行事に合わせて扱う食材、調理法などがとても興味深く改めて日本の美しさに気づかされました。

5. 今年、ジュニア・チェロ・キャンプに指導者としてご参加いただきましたが、その時の感想をぜひ教えてください。

チェロをやっていて良かった！と改めて思う2日間でした。講師の先生方の発する音や言葉、振る舞いの一つ一つまでもが勉強になり、私が1番学ぶ事の多かった受講生なのではと思います。私は、ビギナーズクラスのアシスタントをさせて頂いたのですが、どの子も時間を追うごとに音が生き生きと変化していて、コンサートでは真っ直ぐな音がビューンと会場の後ろまで突き抜けていきました。表情からもチェリストとしての誇りを感じられて、その時の感覚を忘れないでほしいなと思いました。ランチタイムには、他のコースの生徒さん達とも一緒にランチをとったり、コンサートではお互いの演奏を聴きあったりと、互いに刺激しあい、次の目標を立てていたりする受講生に多く出会えた事は、私自身の励みにもなりました。

6. こども達をご指導される上で、気をつけられていること、心がけていることなどありましたら教えてください。

まだまだ経験不足と感じる事が多いですが…。私が出会う生徒さんの中には3～4歳からチェロを始める子も多く、チェロの成長と共にその子自身の成長も見守る事になります。人の成長が様々である様に、ある程度の柔軟さは常に忘れない様に心がけています。とは言え、自由すぎてもチェロが弾ける様にはならないのでそこが難しいです。それぞれの成長に合わせて、とびきり効き目のある処方箋が出せたらいいのにといつも思います。そのためにも、私自身が経験や知識を増やして引き出しを沢山作る事が大切だと思っています。

Upcoming Events

桐朋学園お茶の水教室 10 周年記念演奏会

日時／2020年2月24日（月・祝）
会場／国立オリンピック記念青少年総合センター大ホール
出演／山下 一史（Cond）、小森 谷泉（Pf）、桐朋学園お茶の水教室生徒・講師
問／桐朋学園お茶の水教室事務局 03-3294-0701



S-156 Yuki SAYAMA

佐山 裕樹さん

1. 近況を教えてください

昨年1位を頂いたビバホールチェロコンクルの受賞記念リサイタルを兵庫県の養父市と東京で開催しました。それに併せて11月から12月にかけて栃木・京都でも行い計4カ所でのリサイタルとなりました。ずっと弾いてみたかったメンデルスゾンのチェロソナタを始め、ソッリマの無伴奏、ラフマニノフのソナタ、パガニーニのモーゼの主題による変奏曲といったとてもハードなプログラムでした。4公演は初めての経験でしたので、体力的にも精神的にも大変な部分はありましたが、公演を重ねる毎に多くの発見がありとても良い勉強になりました。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

母の勧めで4歳から始めました。その頃のことは覚えていなくて、気がついたらチェロを弾いていたという記憶しかないのですが、始めたばかりの頃は、ティッシュの空箱に菓子をさしたチェロで座ることに慣れさせていたそうです。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

聴きにに来て頂いたお客様の拍手や雰囲気は温かい時はとても落ち着きます。演奏会に向けて毎回しっかり準備をしますが、演奏前は緊張する時もあります。ですが、舞台上に一歩足を踏み入れた瞬間に会場全体が自分を応援してくれているという気持ちになり、早く弾きたい、楽しい音楽の時間だとワクワクしてきます。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

趣味はいくつかあります。1つ目は料理です。一人暮らしを始めてから初めて料理をしたのですが、ハマってしまい色々な料理を試しています。おかし作りも好きでホールのケーキなども作ります。2つ目は飛行機とカメラです。どちらも好きなので休日はよく羽田空港で望遠レンズを構えて飛行機の写真撮影をしています。また、大きな本番の次日は自分へのご褒美も兼ねて飛行機に乗りカメラを持ち一人でふらっと旅行に出かけます。

5. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか

現在、ソロ活動、室内楽の活動だけでなくオーケストラにも強い興味を持って取り組んでいます。師事する堤先生もソリストとしてだけでなく室内楽の名手、名教授としての顔を持ちますし、堤先生の先生であるシュタルケル先生もオーケストラ奏者、名教授としても活動されました。堤先生からも「全部をやるというのは本当に大変なことだよ」と言われているのですが、現在重点を置いている3つの活動の勉強を続けていきたいですし、発展させていきたいです。

Upcoming Events

PIANO TRIO CONCERT

日時／2020年2月12日（水）19：00開演（18：30開場）
会場／豊洲シビックセンターホール
料金／全席自由 3,000円
出演／佐山裕樹、吉江美桜、百瀬功次
問／sayamayukiticket@gmail.com（佐山）

高校時代から一緒に勉強してきた2人とトリオの演奏会をします。昨年1年間チェリストの山崎伸子先生とピアニストの練木繁夫先生のレッスンを受けたくさんのことを学び、また吸収しました。若さあふれる3人ですがブラームスの奥の深い音楽、またラヴェルのフランスの風を感じていただければと思います。



MEMBERS VOICE

R-258 柏木 英一 さん

ハーモニの緊張と緩和

チェロを弾き始めて40年になりますが、この歳になっても上達したいという気持ちだけは持ち続けています。

2018年1月にはチェロ・サロンで山本裕康先生のクリニックスを受ける貴重な機会を頂きました。無謀にも数十人のチェリストを前にバッハの無伴奏組曲を選曲。先生のアドバイスは、「和声の緊張と緩和を考えて弾く」ということでした。でも正直なところ、どう弾き分けてよいイメージがわからなかったので、懇親会で思い切って質問しました。先生からは「例えば、トイレに行きたくて我慢している時が緊張ですね」というお答えをいただきました。わかりやすい！それ以上はおつしやらなかったですが、トイレで開放感を味わうのが緩和ですね（たぶん）。

それ以来、無伴奏をさらう時は、緊張と緩和（とトイレ）を思い浮かべています。その後、メネセス氏のマスタークラスを聴講したら、緊張と緩和を助言されました。プロでも大事なことになるご助言です。

退任のご挨拶

R-048 倉田 澄子

日本チェロ協会の立ち上げの時より、議員の一人として、お世話になりました倉田澄子です。今まで何のお役にも立てないまま、楽しく有意義な時を過ごさせて頂きました事を、お詫びと感謝の気持ちをもって、この度、健康と家庭の事情により退任させて頂くことになりました。

私事になりますが、父は戦前チェロの勉学の為、船でパリに渡り、モリス・マレシャル氏に師事しました。当時14〜5歳の、とても上手な少女チェリストのリサイタルを聴き、将来、もし自分に女の子が生まれたら、チェロをやらせたい！と心に決めていたそうです。

その時のかわいいチェリストが、後に日本の藝大に教えるに來られたレオス・フラシヨ先生だと知って驚きました。32歳で逝った父が残してくれた資料の中には、この時の茶色くなった古いチラシも有りました。私が、パリ留学から帰国後、日本の女流で初めて虎ノ門ホールでデビューリサイタルを開催させて頂いた時、音楽新聞の表紙には、「女流チェリストの草分け」と書かれた事など思い出し、しみじみと時の流れを感じております。

帰国した頃、桐朋のチェロ科が昔は門下の垣根を越えた家族的な温かさがあったのに、と感じて、チェロアンサンブルを始める事を思いつきました。当時の学生達の中には、長谷部一郎君や古川展生君が居り、私が手描きのポスターを作り、333の教室でやった発表会には、井上頼豊先生もいらして下さいました。今ではチェロアンも定着して、今週は府中の森で定期の本番を控えています。

来年2月には、チェロ・コンGRESSで沢山のアマチュア・チェリストを交えた1500人のチェロ・オーケストラを聴けることをとても楽しみにしています。前回の東京五輪から56年、1964年秋は、ちょうど私がパリに行った年でした。

これからも日本の素敵なチェリストが益々活躍されることを願いながら…。

2019・12・9 倉田 澄子



事務局からのお知らせ

■アジア・パシフィック・チェロ・コンGRESS 2020

日時：2020年2月7日(金)・8日(土)・9日(日)

会場：サントリー大ホール、ブルーローズ

リハーサル室、ほか

出演者：堤 剛、宮田 大、向山 佳絵子

山本 裕康、辻本 玲、遠藤 真理、長谷川 陽子

伊藤 悠貴、山本 祐ノ介、ほか

チケット取り扱い：サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

お問い合わせ（コンGRESS公式サイト）：

<https://asia2020.cello-congress.com/>

■第4回ジュニア・チェロ・キャンプ

日時：2020年10月10日(土)・11日(日)

会場：桐朋学園大学 調布キャンパス

募集内容：アカデミー（ソロ演奏コース、アンサンブルコース）、発表会、懇親会など

対象：2020年10月時点で、小・中学校に通っている児童・生徒

講師陣：堤 剛、中島 颯、堀 了介、山崎 伸子、ほか

※詳細は準備が整い次第ウェブサイトに掲載いたします。

【編集後記】

寒さが一段と厳しくなってきましたが、皆様いかがお過ごしですか。新しい元号『令和』も早いもので、元年から令和2年となる今日この頃です。

事務局では、コンGRESSの準備に追われる日々でございます。皆様のお力添えのおかげでチケットの売行きもよく、感謝の気持ちでいっぱいです。9日の大ホールでの演奏会、是非満席に近づきたいので、皆様どうぞ今後ともお力添えのほどよろしくお願いいたします。

また、ご挨拶が遅れましたがこの4月より、事務局で働かせていただくことになりました今川寿美代と小島彬です。今回の会報でご報告をしているイベント等で既にお会いできた方々もいらっしゃると思いますが、コンGRESS等のイベントで改めて皆様にお目にかかれましてを楽しみにしております。チェロを愛する皆様と時間を共有できることを大変嬉しく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

チェロ協会の公式サイトに情報を掲載できます

チェリストを探す

公演情報

チェロ協会の公式サイトでは、公演情報や会員の皆さまのチェリストとしてのプロフィールを無料で掲載しております。ぜひ情報をお寄せください。



一般財団法人 日本チェロ協会 (JCS NEWS) 第54号 2019年12月27日発行

発行 一般財団法人 日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル22階 秘書箱509号

電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310 E-mail office@cello.or.jp

発行人 堤 剛

編集 日本チェロ協会事務局

編集協力 株式会社アイデアリズム